

# 地域子育て支援利用の現状についての一研究

—スタッフの日記をもとに—

○春日由美<sup>1)</sup>・井天満誠也<sup>2)</sup>・井藤井智佳子<sup>3)</sup>・小野史典<sup>1)</sup>

(<sup>1)</sup> 山口大学教育学部・<sup>2)</sup> 山口大学大学院創成科学研究科・<sup>3)</sup> NPO 法人あつと)

## 研究の目的

我が国において出生数の減少は予想を上回るペースで進み、2020年の出生数は調査開始以来、最少となった。そのような中、子どもを産み育てることを支えるために、全国で多様な数多くの子育て支援活動が行われるようになってきている。一方で、それぞれの子育て支援活動は、現場のスタッフや子育て支援の専門家による経験や主観によって進められてきた側面が大きく、データをもとに子育て支援の現状や課題を捉えようと試みたものは少ない。そこで本研究では、ある子育て支援活動における14年にわたる活動日記を用い、テキストマイニング分析により客観的に活動状況を把握し、子育て支援活動利用における特徴や課題について検討する。

## 方法

NPO法人の子育て支援広場活動の2003年7月～2013年3月、2017年4月～2021年3月のスタッフ記載の活動日記の「気づき」の部分を分析に用いた。段落ごとにテキスト形式にデータ化し、KHcoderを用いテキストマイニング分析を行った。

## 結果と考察

用いた日記は3,298日分で、段落のまとまりの数は19,142であった。曜日、月、年度の特徴を検討するため対応分析を行い、対応分析において特徴が見られた単語について、共起ネットワーク分析で確認を行った。また「母親」を意味する単語（母親・母・ママ・お母さん・おかあさん・奥さん）と「父親」を意味する単語（父親・父・パパ・お父さん・おとうさん・旦那）を含む文章の特徴を検討するため、これらの単語を含む文章のみでも共起ネットワーク分析を行った。テキストデータの対応分析・共起ネットワーク分析では、特徴的な単語の上位100件を描画し、分析を行った。

図1のように月の対応分析では、季節ごとのまとまりが見られ、反時計回りに進むように月が現れていた。つまり季節ごとに活動内容や利用者の様子が徐々に変化していくと考えられた。曜日の対応分析では、水曜と土曜と日曜が中心から離れ

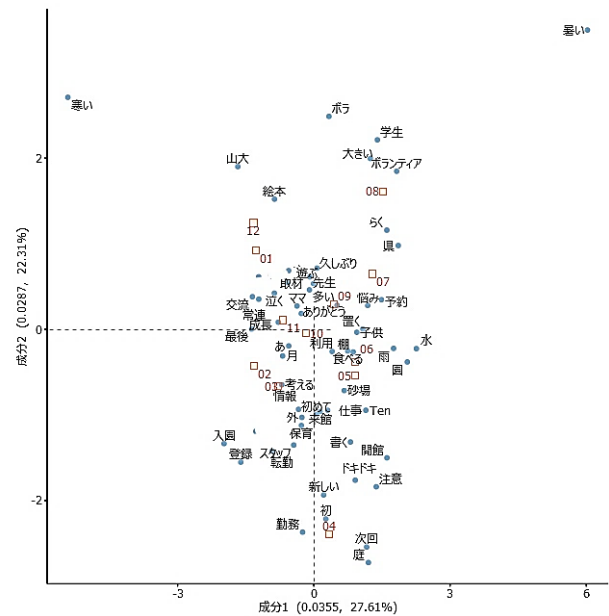


図1. 月の対応分析

ていたため、これらの特徴は他の曜日と異なると考えられた。また、土曜と日曜は近くにあるため、特徴が似ていることが考えられた。

その他、曜日の共起ネットワーク分析の結果、土曜は「父親」と「一緒」の繋がりが強く、日曜は他の曜日とは異なり「父親」と「母親」の繋がりが強く、水曜は行事を示す語句同士の繋がりが見られた。これらから、曜日ごとに場の様子が異なると考えられ、また土日の父親参加は、日記に記すほどスタッフから注目されると考えられた。年度の対応分析では、3つのまとまりが見られ、同じ場での活動であっても14年間の活動は一樣ではなく、変化していくことが考えられた。「父親」を含む文章で作成した共起ネットワークでは、「父親」と「母親」が直接繋がっており、「母親」を含む文章で作成した共起ネットワークでは「母親」と「父親」は繋がっていなかった。すなわち、「母親」は「父親」以外の単語と共起することが多い一方で、「父親」は「母親」と共起しやすい。このことから、スタッフは父親を個人としてでなく、母親とセットで扱う傾向があると考えられた。（本研究は、山口大学 AI 研究デザインプロジェクト支援経費を受けて行われました。）